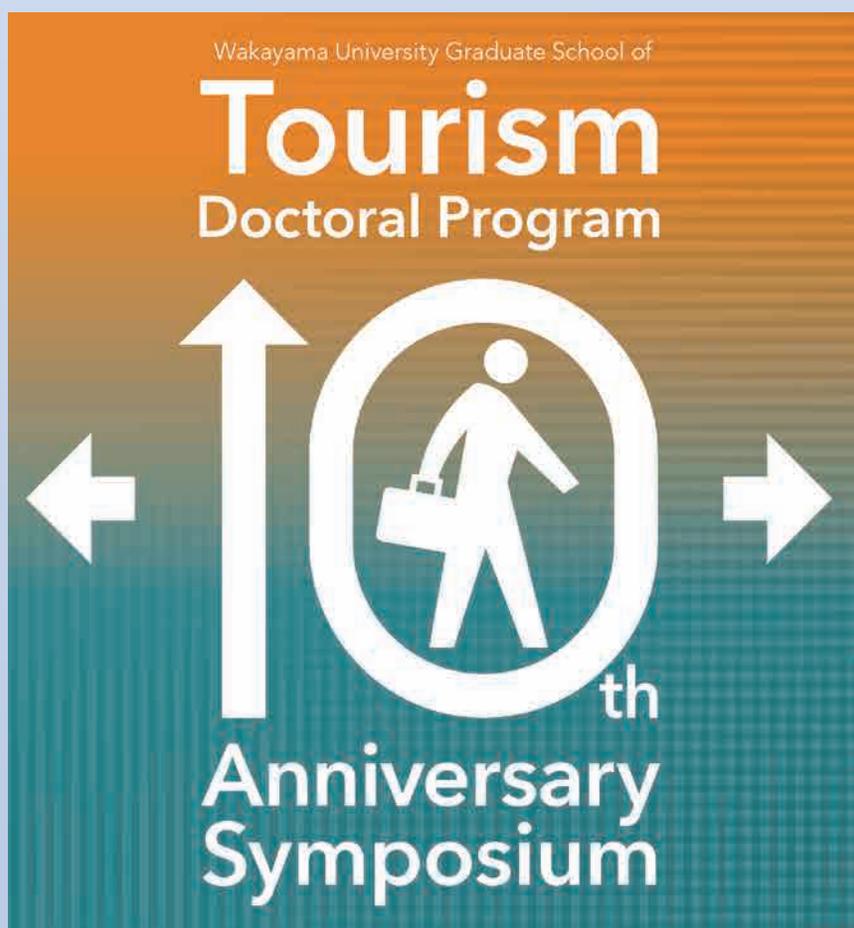


Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Autumn/Winter 2024



2024年10月12日(土) 大学院観光学研究科博士後期課程設置10周年記念シンポジウムを開催しました(8ページ)

Contents – 目次 –

1. Reports – 和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告 –
2. Topics – 過去のイベントとニュース –
3. Future Events – 今後のイベント紹介 –

■「よそ者」ならではの視点から私たちにできること

～地域連携プログラム (LPP) : 大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、

暮らしを持続的なものとするためのステップを議論する

(和歌山県海南市)

柏木 大和さん (2年生 (17期生) / 和歌山県立星林高等学校出身)



「自分が生まれた和歌山を活性化させるために、地域の人たちと活動したい。」という高校生の頃に抱いていた想いを実現できる観光学部に入学し、活動を希望していた大崎 LPP に参加し、今年度で 2 年目になります。

私の所属する大崎 LPP では、和歌山県海南市大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、暮らしを持続的なものとするためのステップを議論することをテーマとし、げんき大崎の方々と連携して活動しています。今年度の活動人数は 2 年生 5 人、1 年生 2 人の計 7 人と他の LPP に比べて非常に少ない人数ではあるものの、少ないからこそ全員の仲が深く、活動しやすいのが良い点であると考えています。今年度は、昨年度から作成をしていた大崎ガイドマップの完成に加えて、イベントへスタッフとして参加し大崎の魅力を発掘・情報発信することを目標に活動しています。大崎は万葉集で「大崎の神の小浜は狭けども百船人も過ぐといはなくに」と詠まれるほど海がとても魅力的な場所です。海産物に恵まれているだけでなく、シーカヤックなどのアクティビティを体験することができるなど大崎の自然の美しさを体感できる場所も近年、誕生しています。私たちもこのシーカヤックを体験させていただいたのですが、天候が良い日には四国の一部が見えるほど壮大な大海原が広がっていました。自然に触れ合う機会が少ない中でこのように自然と向き合える貴重な体験ができるのも大崎ならではの良さではないかと考えました。また、大崎ではかざまちカフェを営業しており、ここでは季節の飲み物や手作りスイーツを食べながらくつろげるだけでなく、土曜日限定で好きな魚を選んでそれを料理にしてもらおうおまかせランチもあり、「とれたて」の最高の贅沢を味わうことができます。かざまちカフェは県外から多数の人が訪れるだけでなく、地域の人たちにとっての憩いの場でもあります。お年寄りから小さな子どもまで幅広い年代の人がこのコミュニティスペースに集い、時間を共有する。これも大崎地区における暮らしの一部であると感じました。このように、大崎は人口や地区の規模が大きいものではないものの、地区全体がまるで家族であるかのような温かさを感じる場所であると現地に何度も訪問を重ねるうちに考えました。

大崎地区に住んでいない私たち「よそ者」が大崎地区を盛り上げるために何かをすることは簡単なことではないと考えます。しかし、地道に地域に向き合い、地域の人と関わり合ってきたことで得られた視点や学びはきっと生きてくるのではないかと思います。昨年度から作成を続けているガイドマップには私たち「よそ者」から見た大崎の魅力が記されており、これまでじっくり大崎と関わって得たことが集約されたものになっています。そして、私たち大崎 LPP は今年度、大学祭の模擬店出店に初挑戦します。大崎の方たちとの打ち合わせから始まり、すべてのことが初めてで上手くいくのか不安ではありますが、失敗を恐れずにチャレンジすることを大切にし、大学祭という場を借りて、より多くの人に大崎の魅力について知ってもらえるような機会にしたいです。「和歌山を盛り上げる」という高校から抱いていた想いをこれからも実現するため、私は今後も LPP の活動を通してたくさんの方に挑戦し続けていきたいと考えています。

■ 地域の新たな魅力を引き出すために

湯浅町 LPP の挑戦：金山寺味噌ハンバーグの開発と地域活性化への取り組み

～地域連携プログラム（LPP）：湯浅の若者と共につくる！本気の商品開発（和歌山県湯浅町）

蓑田 彩夏さん（2年生（17期生）／熊本県立人吉高等学校出身）

私たち湯浅町 LPP は、「湯浅の若者と作る本気の商品開発」をテーマにふるさと納税の返礼品を開発しています。メンバーは、1 回生 2 名、2 回生 3 名、3 回生 2 名の計 7 名で活動しています。湯浅町は、みかんやしらすなどの第一次産業が盛んな地域です。特に醤油が有名で、「醤油醸造発祥の地」と言われています。私たちは、そこに着目し金山寺味噌を使ったハンバーグを開発しています。金山寺味噌は、醤油の起源ともされており、たくさんの具材が入った味噌になっています。その金山寺味噌とハンバーグを組み合わせた新たな湯浅の特産品を作るために、LPP で活動をしています。

2023 年度の活動内容としては、ふるさと納税の返礼品の調査、試作品の制作、OEM 先の決定、パッケージデザインの検討を行いました。全国のふるさと納税の売り上げランキングを調べ、商品開発に向いている商品は何かを考えました。ふるさと納税で人気があること、和歌山に紀州和華牛というブランド牛があること、アレンジをしやすいことという3点から、ハンバーグを作ることになりました。試作では、しらす入り、レモン入り、金山寺味噌入りを作り、最も美味しいものを検討しました。その結果、1 番美味しかった金山寺味噌が選ばれました。OEM 先も順調に決まり、一度、完成はしたものの更なる改良をしたいと考え、2024 年度へ持ち越しになりました。毎週会議も行い、パッケージについてやふるさと納税についての論文を読むなど、座学も欠かさず行いました。

今年度は、ハンバーグの開発に加え、梅の商品開発やイベント出店、SNS についての活動など湯浅町に関する取り組みを幅広く行う予定です。2024 年の 7 月 27・28 日には、LPP 合宿を行い、今後の活動内容やハンバーグを食べてみての感想などを話し合いました。また、その日、同時に行われていた湯浅まつりの花火大会にも参加し、地域の人々との交流や迫力満点の花火を楽しむことで、湯浅町についての理解を深めることができました。今年度は、ハンバーグを販売することを第一目標に、それ以外にも参加メンバー各々がやりたいことを活動内容に反映していこうと考えています。湯浅町 LPP の良い点は、商品開発だけではなく学生がやりたいと思えることができる点と地域の人と様々な形で交流できる点だと思います。参加学生 1 人が湯浅町について知り、自分にできることを行い、より良い活動に繋げていけるよう今年度も活動を続けていきます。



■ COD GIP で得た新たな学び

Global Intensive Project（GIP） - Global Learning Advanced :

～ Leadership and Management in the Hospitality Industry

（College of the Desert（アメリカ）との連携プログラム）

石野 莉奈さん（3年生（16期生）／岡山県立岡山城東高等学校出身）

私は 2024 年 4 月から 2 ヶ月間、アメリカ・カリフォルニア州の College of the Desert（COD）と和歌山大学観光学部が連携して開講する GIP プログラム、「Leadership and Management in the Hospitality Industry（ホスピタリティ産業におけるリーダーシップと経営）」に参加し、ハイブリッド形式で現地の学生と共に学びました。このプログラムを通

（次ページへつづく）



して、ホスピタリティ業界において求められるリーダーシップの在り方や、アメリカと日本における経営手法の違いについて深く学ぶことができました。

アメリカと日本の時差を超えて実施されたオンラインのライブ講義では、ホスピタリティ業界におけるリーダーシップは、文化的理解、コミュニケーション能力が非常に重要であること学びました。現代では、従業員の自発性や創造性を重視するリーダーシップが求められており、個々のアイデアや意見を積極的に取り入れ、従業員が主体的に動ける環境を作ることがリーダーの重要な役割とされていることが印象に残りました。

また、講義内では、CODの学生と意見交換を行う機会が多くありました。彼らは非常に積極的で、活発に意見を交換する姿勢が印象的でした。私自身、英語でのコミュニケーションに不安を感じることもありましたが、その積極性に触発され、さらに英語力を向上させたいという強い意欲を持つようになりました。異なる文化背景を持つ学生との交流を通じて、多角的な視点で物事を考える力を養うことができました。

プログラムの終盤には、CODの学生が日本に来日し、大阪、広島、京都、東京を訪問しました。私たちは一緒に大阪のリーガロイヤルホテルと京都のエースホテルを訪れ、国内企業と外資系企業の経営の違いについて学びました。日本企業は、おもてなしの精神を重視し、お客様との長期的な信頼関係の構築を大切にしているのに対し、外資系企業は、内装やサービスなどに国際的な視点を重視している点が対照的でした。こうした違いを実際に現場で学ぶことができたのは非常に貴重な経験でした。

CODの学生と話している際に日本の文化や日本特有の商品の意味を聞かれる機会がありました。普段は当たり前と感じている日本の文化や商品が、他国の人々にとっては新鮮で興味深いものであることに改めて気づかされ、日本文化の豊かさを再認識しました。特に、日常的に使われている商品やサービスに込められた工夫や配慮が、海外の学生にとっては驚きと感動を与えていることを知り、日本人としての誇りを感じました。

このプログラムを通して、ホスピタリティ業界におけるリーダーシップについての理解を深めるとともに、異文化間の交流やコミュニケーションの重要性を実感しました。自分の成長のためには、さらに英語力を向上させる必要があると感じる一方で、異なる視点を持つ人々との対話を通じて新たな気づきや学びが得られることを実感しました。

■ Global Intensive Project (GIP) - Global Learning Activity :

～ Communication Skills for Global Citizenship

(Faculty of Education, University of Alberta, CANADA)

浅見 沙矢さん (3年生 (16期生) / 香川県立高松西高等学校出身)

林 香里さん (3年生 (16期生) / 和歌山信愛高等学校出身)

城 七海さん (3年生 (16期生) / 和歌山県立橋本高等学校出身)



2023年度のカナダ GIP には、3回生 4人、2回生 2人の計 6人が参加しました。アルバータ州都のエドモントンに位置するアルバータ大学に通いながら、2月 26日から 3月 24日までの約 4週間滞在しました。私たちが滞在した時期は真冬で体感気温は -40 度になることもあり、日本と全く違う環境での生活でした。

現地では午前中に大学で授業を受け、午後からはアクティビティに参加しました。授業では他大学の日本人学生と一緒にカナダの歴史や文化について学びました。1クラス約 11人程度と少人数であったため、発言のしやすい環境でした。授業の中でグループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会も多く、

英語で話すことに自信ができました。アクティビティではアイスホッケー観戦やカーリング体験、国立公園や美術館を訪れ、授業で習ったことを実際に見て、体験することができました。また毎週木曜日には Conversation Club があり、現地の留学生とグループになって自分たちの国の文化やカナダでの生活について意見を交わしました。様々なバックグラウンドを持つ学生たちと交流できたことは大きな刺激となりました。このアクティビティで出会った学生と一緒に出掛けることもでき、友達作りの場にもなりました。放課後は、ウェストエドモントンモールやホワイトアベニューに行き、買い物を楽しみました。ホワイトアベニューでは地元の人に人気があるプーティンやアイスクリームのお店に行き、現地の食を味わいました。また無料のアイススケート場があり、現地の住民でなくても気軽に利用することができました。自分たちで経路を調べ、知らない土地でLRTやバスを乗り継ぐということもよい経験になりました。

ホームステイ先では各家庭によって食文化や生活スタイルが異なり、カナダが多文化社会であることを間近で感じることができました。最初は英語を思うように話せず、また人によって英語のアクセントや話すスピードがかなり違ったため、コミュニケーションを取るのに苦労しました。しかしホストファミリーは私たちが言おうとしていることを最後まで聞いてくれ、話しやすい環境を作ってくれたおかげで活発にコミュニケーションが取れるようになりました。色々な人と話す中で多様なアクセントにも慣れていき、リスニング力に自信ができました。休日は動物園や植物園、教会、マーケットに連れて行ってもらい、エドモントンの街を楽しみました。また日々の食事を一緒に作ったり、日本の調味料を使って料理を振る舞ったりしました。ホストファミリーも日本の食べ物や生活に興味を持ってくれ、話が盛り上がりました。

4週間を通して知らない土地、慣れない言語で生活した経験は、英語力の面でも、行動力の面でも私たちを大きく成長させてくれました。また様々な経験を持つ人々との交流によって、挑戦することの大切さに改めて気付きました。今回のカナダ・エドモントンでの経験を活かして、これからの大学生活を更に充実したものにしていきたいと思います。



■ イギリス交換留学を通して学んだ新たな発見

小木 岳斗さん (4年生 (15期生) / 静岡県立浜松西高等学校出身)

2023年9月から2024年6月までイングランド北西部のプレストンという街にあるセントラルランカシャー大学 (UCLan) で交換留学をしていました。プレストンはこぢんまりとした街で、駅やショッピングセンター、スーパーマーケット、公園など生活に必要な場所へはどこへでも歩いていくことができ、とても住みやすい街です。また、イギリス国内でも有数の物価が低い街として知られていたり、大学の街であることから比較的治安も良かったりと、留学生にとってとても良い環境であることも感じました。

自分は英語を話せたらカッコいいなあという単純な理由で高校生の時から留学したいと思っており、和歌山大学へ入学し、英語力をつけるために Global Program (GP2.0) という英語を使って観光を学ぶというプログラムへ参加しました。1年生のころから英語で行われる授業を履修したり、海外の学生と一緒に授業を受けたりしていく中で、どれだけ自分に英語力がないかということに気がきました。そこで、交換留学先として、学部留学ではなく、協定校の中で唯一



(次ページへつづく)



語学留学のプログラムがある UCLan を選びました。授業では、アカデミックライティングやプレゼンの仕方、イギリスの歴史、文化を主に学びました。授業内にグループワークでのディスカッションやリーディング、リスニングをする機会が必ず設けられており、英語力の向上を目的としていた自分にとってとても良い環境で学ぶことができましたと感じています。

自分にとって一番の財産は現地で出会った友達です。ヨーロッパ出身の学生はもちろん、韓国や中国、インドなどアジア出身の学生、エジプトやスーダンなどアフリカ出身の学生など、世界中の学生と出会うことができ、日本では体験することのできない貴重な経験ができました。母国に住むことができなくなりイギリスへ引っ越しせざるを得なくなってしまった友達や、母国を離れ単身で働きながら学んでいる友達などそれぞれが様々なバックグラウンドを持っており、今自分の置かれている状況を見つめなおす良い機会にもなりました。様々な国の友達と交流していく中で、それぞれの国の文化や考え、宗教についてインターネットが広まった現代でも知ることのできないような生の声や事実について学ぶことができ、世界にはまだ知らないことが溢れていて、自分はどれだけ狭い世界で生きていたのかを気づくきっかけにもなりました。

留学では語学力の向上はもちろん、自分の考えや世界を広げるような体験ができ、これからの生き方を考える大きな契機になりました。最後に、このような機会を提供し、サポートしてくださった、大学の国際交流課、観光実践教育サポートオフィスの皆様方や家族、友達にこの場を借りて感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

➔ 関連記事 ニュースレター WTU 2023AW (2023年10月発行) 7ページ
https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00703253/WTU_2023AWs.pdf

■ カーティン大学での交換留学から得た学び

木村 羽瑠さん (4年生 (15期生) / 帝塚山学院高等学校 (大阪府) 出身)



私は2023年7月から12月までの約5か月間、オーストラリアのパースにあるカーティン大学へ交換留学に行きました。以前にも一か月ほどの短期留学を経験したことはありましたが、今回初めて中学生の時から目指していた長期留学に行く夢が叶いました。私がカーティン大学を交換留学先に選んだのは、観光学をビジネスやマーケティングと絡めて学ぶ授業を取り扱っていたからです。

私は留学中、ホスピタリティ、観光マーケティング、マーケティングコミュニケーションについての合計3つの科目を履修しました。どの授業でもグループディスカッションの時間が毎回設けられ、現地学生や他の留学生と話す機会がたくさんありました。グループプレゼンテーションやレポートをもとに評価されるので、授業の内容を理解するだけではなく、そこから自分が考えたことについて表現することが求められました。特に印象に残っている授業は、リッツカールトン・パースへのフィールドワークです。ホスピタリティの高さで有名なホテルを見学し、そこで働く人からホスピタリティ業界で働くことについてお話を聞くことができました。

現地では中国やケニアから来た学生と一緒に暮らす、シェアハウスのような寮に入り生活しました。私は日本では実家暮らしなので、初めての一人暮らしを経験するうえでの不安がありました。しかし、ルームメイトに助けられながら家事をこなすことができるようになりました。ルームメイト以外にも、留学生同士で交流するためのイベントをカーティン大学がたくさん企画してくれていたため、

入学後すぐに友達を作ることができました。休日は留学生生活を満喫し英語力を高めるために、できるだけ毎日友達を誘って外出するようにしました。異なる文化や考え方を持つ学生との生活は新しい発見が多く、楽しかったです。それぞれの文化や考え方への理解力を高めることもできたと感じます。

私は今回の留学中、勉強面以外での学びも多くありました。特に、新しい環境に素早く溶け込み、その中で常に前向きに取り組む力が身に着いたと感じます。留学中に得たことを就職活動や残りの大学生活に役立てたいと考えています。

- ➔ 関連記事 ニュースレター WTU 2023AW (2023年10月発行) 7ページ
https://www.wakayama-u.ac.jp/_files/00703253/WTU_2023AWs.pdf

Topics –過去のイベントとニュース–

■ 学部内公開講義「観光学部生のためのロールモデルセミナー」を実施しました

2024年度前期は、本学部の卒業生を講師に迎え、観光学部での学びや大学時代の活動が、現在のキャリアや活動にどのように関わっているのか等をご紹介いただく学部内公開講義「観光学部生のためのロールモデルセミナー：観光学部卒業生との交流会」（観光学部同窓会「飛耀会」との共催）を2件実施しました。

▶2024年4月25日（木）実施：

講師：観光学部10期生、Air Andrew Ltd. パイロット、カナダ在住
小滝 侑氏

▶2024年7月29日（月）実施：

講師：観光学部1期生、国土交通省観光庁 国際観光部 国際観光課
崎山 由樹氏

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024042600019/>
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024073100113/>



■ 総合観光イベント「ツーリズム EXPO ジャパン 2024」に出展しました

2024年9月26日（木）～29日（日）、東京ビッグサイトで開催された「旅の未来を想像する」総合観光イベント「ツーリズム EXPO ジャパン 2024」に、和歌山大学観光学部とサステナビリティ研究室（加藤研究室）が出展しました。

本学部のブースでは学部・大学院（博士課程、専門職学位課程）の教育・研究活動などの紹介を行い、サステナビリティ研究室のブースでは国際基準に沿って観光庁が開発した「持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」(地域版)のオンライン・ベンチマーキングツール「STARs」の活用をはじめとする持続可能な観光地域づくりのための研修や、サステナビリティ理論に基づいた多様なアプローチを紹介しました。27日（金）には、「サステナブルな観光地域マネジメントとは」と題した、加藤研究室所属学生らによるセミナーも行いました。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024080100069/>
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024080100076/>



■「和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程設置 10 周年記念シンポジウム」& 「和歌山大学観光学部 学生リサーチウィーク」を開催しました



2024年10月12日(土)、和歌山大学大学院観光学研究科博士後期課程設置10周年記念シンポジウム「社会変革の力としての観光研究 Tourism Research as a Social Force」を開催しました。

本シンポジウムには、学内外の教員や学生など約70名の参加があり、基調講演やパネルディスカッションを通じて、今日の社会に求められる学術研究のあり方や方向性について、国際的視野を持って議論、理解すると共に、観光学部・研究科における研究を振り返り、今後の観光学研究における和歌山大学の役割を再確認しました。また、博士後期課程修了生を中心とする若手研究者の今後の学術界への貢献と更なる挑戦を後押しする機会ともなりました。

また、10月15日(火)～18日(金)には、学内教職員・学生を対象とした「和歌山大学観光学部 学生リサーチウィーク」も開催。

博士後期課程院生によるパブリックトーク、研究支援プログラム紹介や卒業論文の書き方、UN Tourism との共催による観光データと統計に関するワークショップ、博士前期課程院生や Global Program4 年生による研究発表など、多彩なプログラムが実施されました。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024071800022/>
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024101500052/>
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024093000028/>

Future Events – 今後のイベント紹介 –

■「2024年度 和歌山大学『観光・地域づくり』講座 @Zoom」のご案内

本講座は、観光地や観光ビジネスにおいて高く評価されているキーパーソンを講師に招へいます。各方面で活躍されている方々のユニークな着眼点やリーダーシップを発揮しての事業の推進、異業種を巻き込んでのコンセンサスの形成方法など、さまざまな観点からの実践事例を拝聴するなかで、和歌山県をはじめとする地域の観光振興とまちづくりの方向性を探ります。

2024年度も昨年度までと同様、Zoomのウェビナー機能を利用したオンライン公開講座(ライブ配信)となっています。各回開始1時間前まで申し込みを受け付けております(ただし、定員に達し次第受付を終了します)。

皆さまの聴講をお待ちしております。

➔ プログラムや参加申込方法などは、観光学部 HP 掲載ニュース記事をご覧ください。
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2024090900048/>

編集・発行

(2024年10月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 和歌山大学西 4 号館 K216 室、K116 室

TEL 073-457-8553 / E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp / URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

* 本誌は Web ページからも閲覧できます→<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/fuzoku/tourism-education-research/wtu.html>

